

令和2年7月豪雨 災害活動報告

(4頁から9頁に掲載)



令和2年7月4日熊本県人吉市矢黒町 (写真提供:国土交通省九州地方西部局)



令和2年7月4日熊本県八代市役所坂本支所(県防災消防ヘリコプター「ひばり」にて撮影)

令和2年7月豪雨 災害活動報告

(4頁から9頁に掲載)



分団格納庫の浸水状況 (福岡県大牟田市)



救出活動の様子(熊本県人吉市)(人吉下球摩消防本部撮影)

令和2年7月豪雨 災害活動報告(熊本県)

熊本県消防協会 会長 山本一樹
(八代市消防団長)

[長閑な風景を一変させた豪雨]

激しい雨は7月3日(金)から4日(土)にかけての夜中に降りました。7月4日午前4時50分、気象庁が県内16市町村に「数十年に一度」という大雨特別警報を発表し最高レベルの警戒を呼び掛けました。これは平成25年の運用開始以来、県内では初めてで、24時間雨量が球磨川上流域など7地点で観測史上1位となる猛烈な雨でした。これまでも台風などで大雨被害はあったのですが、今回は、戦後最大といわれた昭和40年豪雨を圧倒的に超える、経験した事がない大変な大雨でした。

県の南部を流れる球磨川は、日本3大急流のひとつと言われ「くま川下り」や大きく育つ鮎が美味しいことでも有名で、地域に様々な恩恵を与えてきましたが、人吉市や球磨村、芦北町、八代市などで氾濫し住家や商店などを襲いました。令和2年7月豪雨では、県全体で約5000棟が全半壊・床上浸水の被害を受け、多くの道路、橋りょう、線路も流失し交通インフラに大打撃を与えるなど甚大な被害でした。亡くなった方は特別養護老人ホームの14名を含む65名、その多くが溺死でした。行方不明の方がまだ2名おられます。

このように、これまで長閑な山里だった球磨川流域の風景は、4日未明で一変したのです。

[消防団の活動]

各消防団では、3日には避難誘導を行いました。翌朝にはあつという間に河川から水



7月4日午前10時8分頃、県防災ヘリコプター「ひばり」にて撮影(八代市役所坂本支所)



人吉市矢黒町 7月4日朝撮影
(写真提供:国土交通省九州地方西部局)

が溢れ出し、所によっては屋根の上まで冠水し、消防団の詰め所や消防車両も冠水しました。避難所も浸水し、多くの人がヘリで救出されました。水が引いてからは、被害のなかつ



人吉市二日町(人吉下球磨消防本部撮影)



八代市消防団による坂本地区の復興支援 1



八代市消防団による坂本地区の復興支援 2



八代市消防団による行方不明者の捜索



八代市消防団による行方不明者の捜索



人吉市市街部(紺屋町)
7月4日朝撮影
(写真提供:国土交通省九州地方整備局)

た消防団から車両を借りて、家に残っている人はいないか、避難の呼びかけを行い、役場から「どことどこが連絡がつかない」と報告があれば、自宅に行き安否確認も行いました。

その後は、溢れた瓦礫や土砂、泥の撤去、また1軒1軒お宅を回り、要望に応える形でボランティアと一緒に土砂などを撤去したり、家財道具を運んだりしました。

道路が寸断された山間の孤立した集落には、消防団員が連日、スポーツドリンク、インスタント食品、洗剤などの食料品や日用品を数

時間歩いて届け、また、被災家屋の片づけも行いました。

2名の行方不明者に対しては、7月20日(月)、21日(火)と9月13日(日)に、県警、消防、

自衛隊、海上保安庁などの一斉捜索が行われ、球磨川流域や八代海全域を船やヘリコプターで捜索し、消防団員は徒歩で手掛かりを探しました。また、いわゆる災害廃棄物が川から八代海に大量に流れて滞留していたので、暑い中に処理作業も行いました。新型コロナウイルス感染防止の中で消防団の活動も制約を受けましたが、被害が大きかった市町村では、7月から9月末までの豪雨に関する消防団員の出動人数は、団員実人員の約4倍となっているところもあります。

〔課題と教訓〕

先般11月19日に熊本県の蒲島知事は、12年前に「白紙撤回」した川辺川ダムを新たな流水型ダムとして建設することを国に求め、「流域治水」を目指す考えを表明しました。

今後は、今回のような大雨が有りうることを前提とした防災基盤のハード・ソフト面の整備が課題でしょう。球磨村では、ボートがないため救助活動が思うように出来ないという事態がありましたが、保育園のプラスチック製軽量プールをボート代わりに活用し、2階や屋上にいる住民45名を救出したという機転の利いた消防団の活動は、たいへん参考になりました。

このような地域に存在している設備を災害時に活用することも考えておく必要があるでしょう。あらかじめ災害用に代用できる設備を把握しておけば、緊急時にも迅速に対応できるのではないのでしょうか。また、今後は水域周辺の消防団にはボートの配備増強や消防団の詰め所を高台に移動することも考える必要があるのではないかと思います。

熊本県では、平成28年には熊本地震もありました。今回も24時間で400ミリを超える豪雨でしたが、私は安易に「想定外」という言葉を使いたくはありません。このような多くの尊い命や財産が失われる大災害といった事態は、これからも起こりうるものとして、私た

ちが心しておかなければならない時代に入っていると思います。

そのような時代であるからこそ、安全・安心を求める人々の気持ちは、益々高まってきております。わたしたち消防、防災に関わる者としては、しっかりとそれらを受け止めて、気持ちを新たに日頃からの活動を行っていく必要があると思っています。あらゆる災害に備えて、多くの消防団員一人ひとりが自分で考えて行動する。そのために熟練の消防団員は、新入団員の加入に力を入れるとともに、研修訓練をすすめていきたいと考えています。

〔お礼〕

それから、最後になりますが、今回の7月豪雨に係る消防団の活動に対して、日本消防協会をはじめ県外、県内の消防関係団体から多くの温かい義援金、見舞金をいただきました。被害が大きく団員の出動が多かった地域を中心に配布させていただきました。被災地の多くの団員が元気づけられ、これからの復興の大きな励みになったことは間違いないと確信しております。たいへん、感謝しております。ありがとうございました。

令和2年7月豪雨 災害活動報告(福岡県大牟田市)

福岡県大牟田市消防団

1 はじめに

「令和2年7月豪雨」は、梅雨前線が長期にわたり本州付近に停滞したことで、7月3日から7月31日にかけて発生した集中豪雨で、九州や中部地方など日本各地で甚大な被害をもたらしました。

この豪雨災害により犠牲となられた方々のご冥福を心からお祈りいたしますとともに、被災された皆様にお見舞い申し上げます。

2 大牟田市の被害状況

大牟田市は福岡県の南部に位置し、面積は81.45km²で、東に山林、西は有明海に面し、自然豊かな街で、明治から昭和にかけて産炭地として栄えました。現在は、人口約11万2千人、高齢化率35%を超える高齢者の多い街で

す。

今回の豪雨では、7月3日に雨が降り始め、災害の発生する7月6日から7日にかけても降り続けている状況でした。7月6日は10時16分に大雨警報（土砂災害）の発表に伴い、災害対策本部が設置され、自主避難所が開設されました。その時間帯は最大で22mmとなり、平均で約10mm程度の雨が降り続けました。雨が強く降りだしたのは、6日15時から17時にかけてで、15時台に67mm/h、16時台に95mm/h、17時台に90mm/hの強い雨が3時間降り続き、16時30分に大雨特別警報が発令されました。（資料1）特別警報が発表された時には、複数の河川から溢水し、護岸の崩壊や道路冠水の通報が相次ぎました。また、市内各所で道路が冠水し、通行止めとなり、消防団の車

大牟田市における集中豪雨の状況(7月6日)



資料1



消防団格納庫の浸水状況



国道389号の冠水状況

結びに

今回の令和2年7月豪雨では延べ6日間822名の団員が動員されました。本市としても、初めて経験するような水害であり、冠水が2日間続いたことから、被害が長期におよび団員の活動も避難広報、救出救助活動から安否確認までと多岐にわたりました。団員は度重なる出勤要請、出勤途中での救助要請等により、現場での判断を余儀なくされ、団員に心身ともに負担をかけ、自分自身が持つ仕

事との両立で疲労困憊でした。そのような中、救出活動時には消防団員の持つ、地域住民とのネットワークや道路形状等の地域特性の情報を活用し、高齢者世帯等の救出を行うなど、改めて地域防災の要として消防団の存在を市民に認識していただいたと考えております。

今回の活動をとおして、消防団への理解や興味を持っていただけるよう活動内容を市民へ発信していき、入団促進へつながればと思っています。